

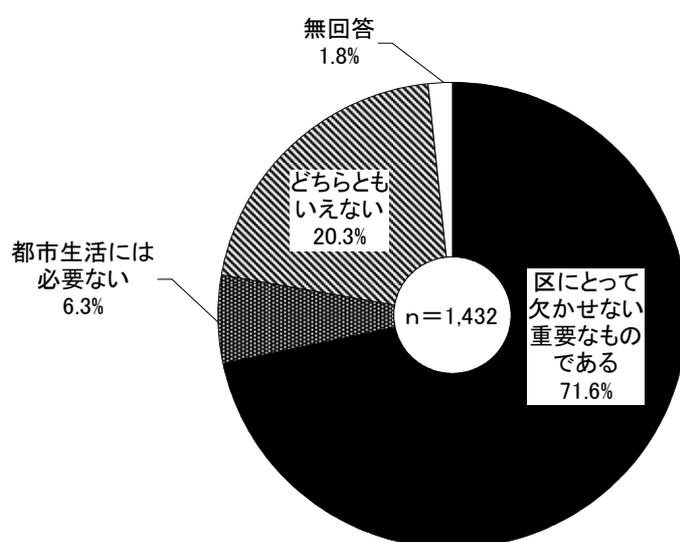
3 練馬区の農地や農業について

(1) 練馬区に農業があることについて

◇「区にとって欠かせない重要なものである」が7割を超える

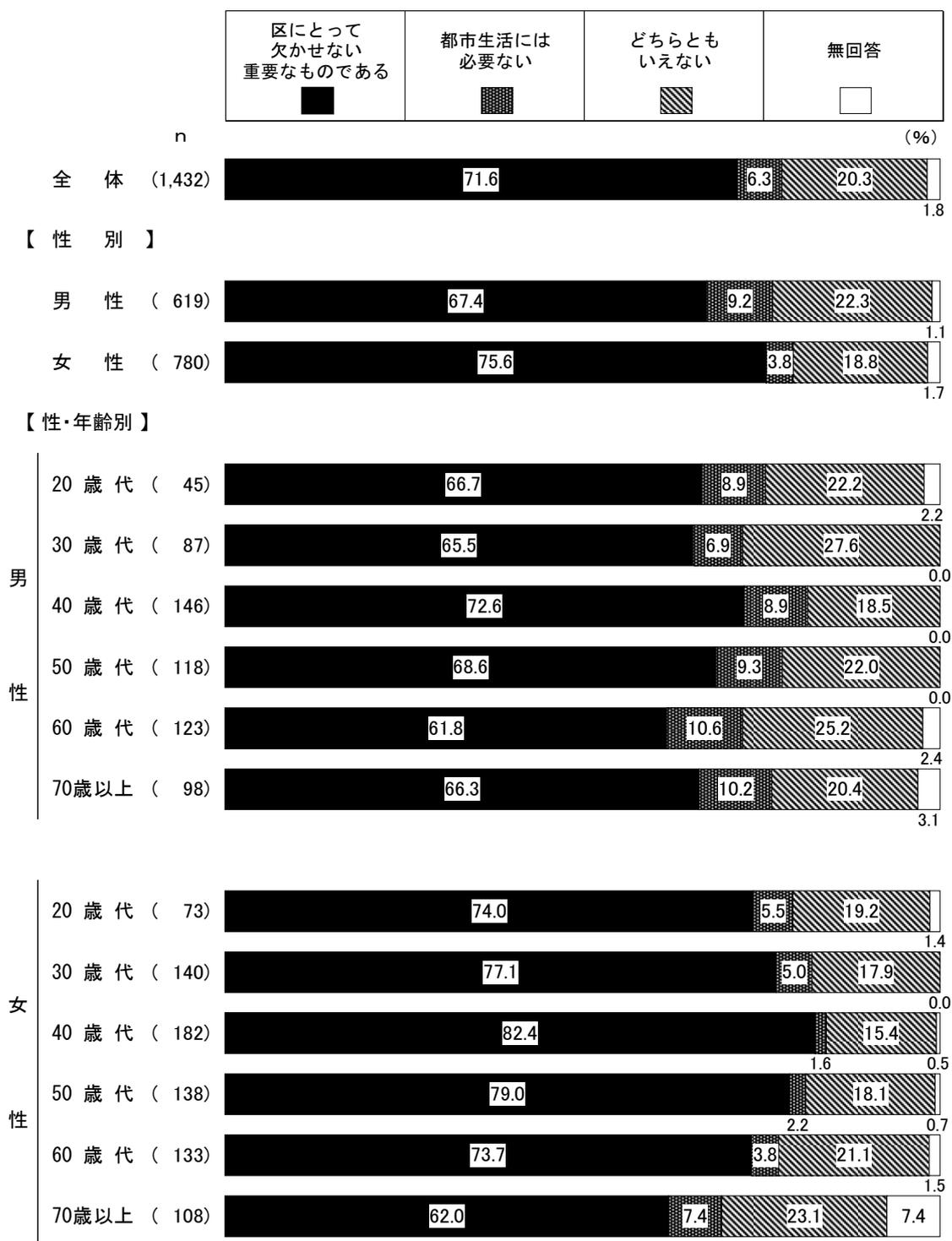
問23 練馬区は23区で最も多くの農地を有し、大都市の利便性を享受できる住宅地の中に、都市生活と融合して生産を続けている生きた農業が行われています。
区では、区内に農地・農業が存在することは、今後の都市生活のあり方をより豊かにするものであると捉え、積極的に農業を振興していこうと考えています。あなたは、練馬区に農業があることについてどう考えますか。(○は1つ)

図3-1-1 練馬区に農業があることについて



練馬区に農業があることについて聞いたところ、「区にとって欠かせない重要なものである」(71.6%)が7割を超えている。(図3-1-1)

図 3-1-2 練馬区に農業があることについて—性別、性・年齢別



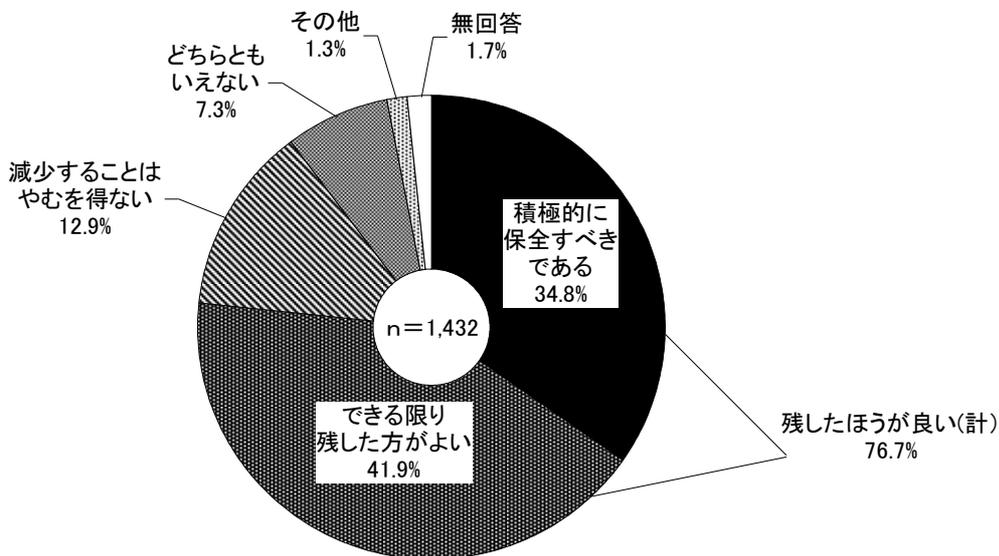
性・年齢別にみると、「区にとって欠かせない重要なものである」は女性40歳代で8割を超え、女性50歳代でほぼ8割と多くなっている。(図3-1-2)

(2) 区内農地の保全について

◇「できる限り残した方がよい」が4割を超え、「積極的に保全すべきである」が3割半ば

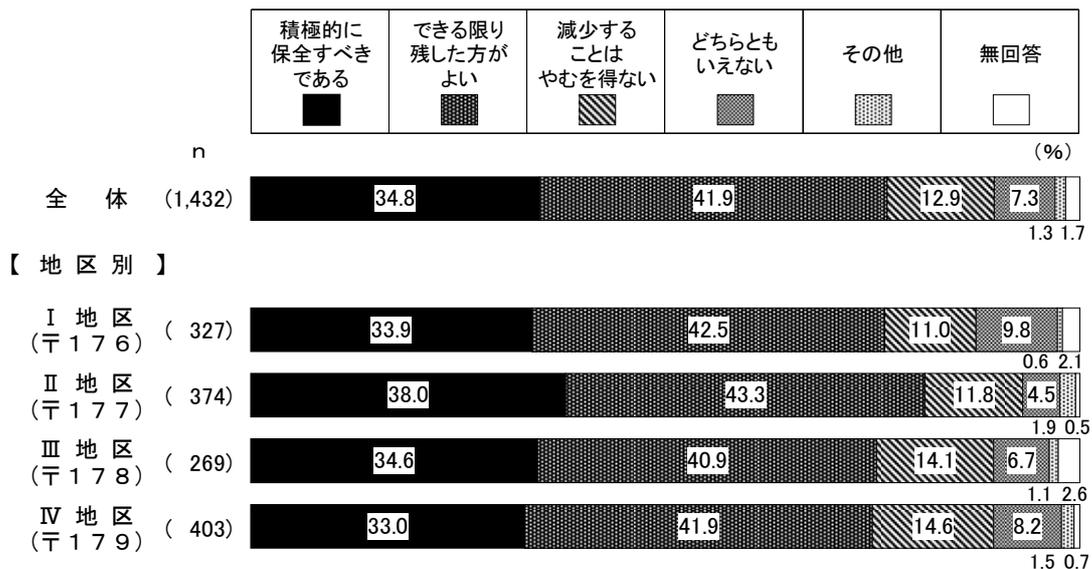
問24 あなたは、区内にある農地の保全についてどう考えますか。(○は1つ)

図3-2-1 区内農地の保全について



「積極的に保全すべきである」(34.8%)と「できる限り残した方がよい」(41.9%)を合わせると7割半ばを超えている。(図3-2-1)

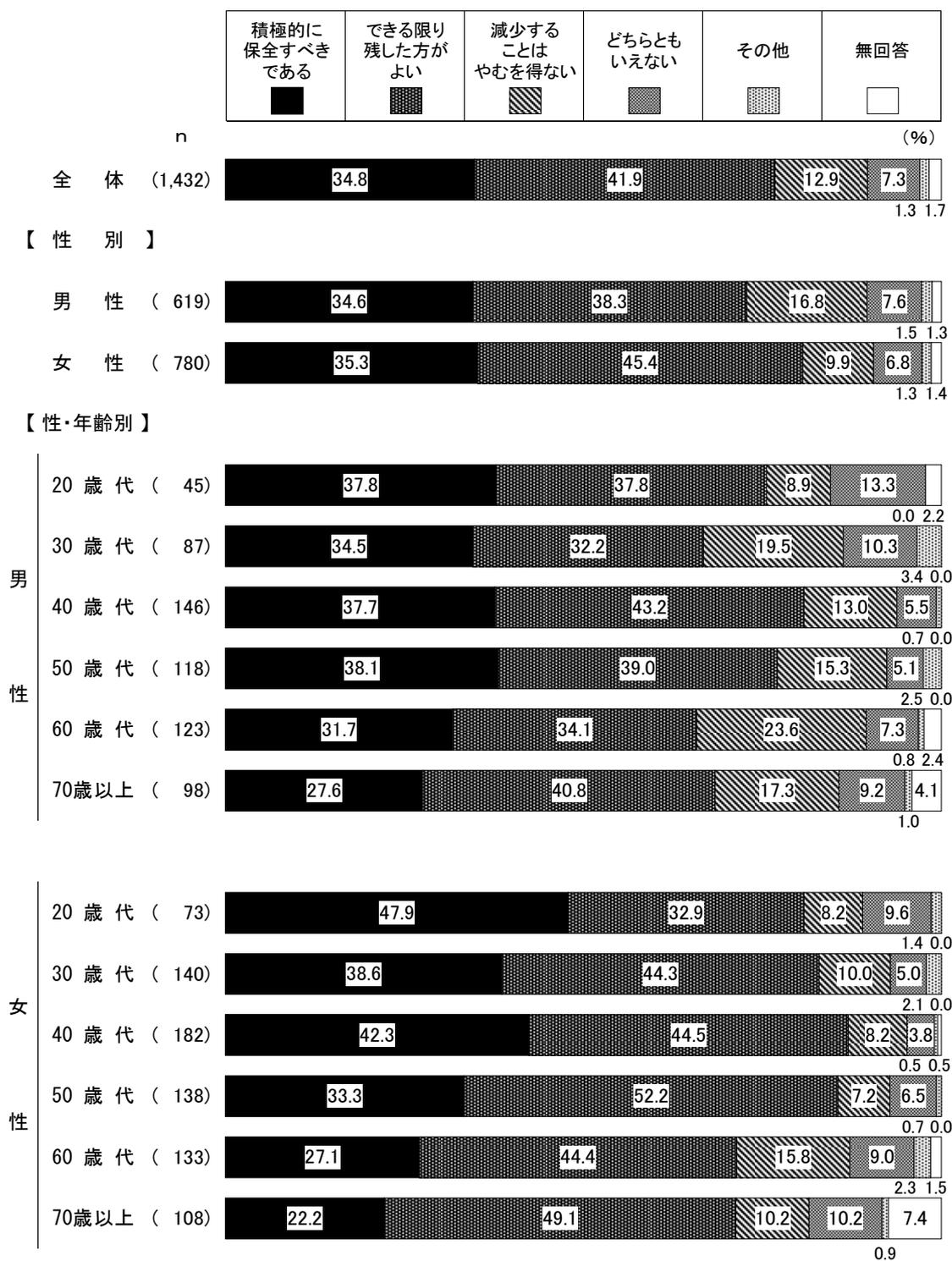
図3-2-2 区内農地の保全について—地区別



地区別にみると、「積極的に保全すべきである」はII地区(〒177)で4割近くと多くなっている。

(図3-2-2)

図3-2-3 区内農地の保全について－性別、性・年齢別



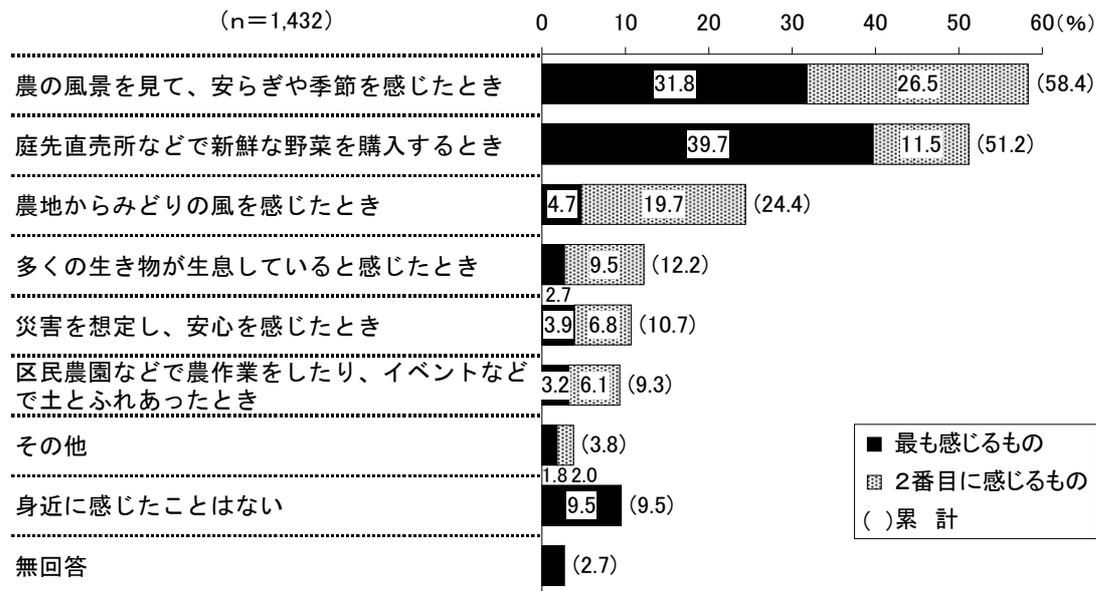
性・年齢別にみると、「積極的に保全すべきである」は女性20歳代で5割近くと多くなっている。「できる限り残した方がよい」は女性50歳代で5割を超えて多くなっている。「減少することはやむを得ない」は男性60歳代で2割を超えて多くなっている。(図3-2-3)

(3) 区内農地の存在を身近に感じること

◇「農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき」が6割近く

問25 あなたは、どういう時に区内にある農地の存在を身近に感じますか。特に身近に感じるもの上位2つを選んでください。

図3-3-1 区内農地の存在を身近に感じること



どういう時に区内にある農地の存在を身近に感じるか、最も感じるもの、2番目に感じるものを挙げてもらった。最も感じるものでは、「庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき」(39.7%)が4割で最も多くなっている。また、最も感じるもの、2番目に感じるものの累計をみると、「農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき」(58.4%)が6割近くで最も多く、次いで「庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき」(51.2%)、「農地からみどりの風を感じたとき」(24.4%)、「多くの生き物が生息していると感じたとき」(12.2%)などの順になっている。(図3-3-1)

表 3-3-1 区内農地の存在を身近に感じること（累計）－地区別

(%)

	n	農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき	庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき	農地からみどりの風を感じたとき	多くの生き物が生息していると感じたとき	災害を想定し、安心を感じたとき	土とふれあったとき	区民農園などで農作業をしたり、イベントなどで	その他	身近に感じたことはない	無回答
全 体	1,432	58.4	51.2	24.4	12.2	10.7	9.3	3.8	9.5	2.7	
【地区別】											
I 地区（〒176）	327	54.1	36.4	23.5	13.1	9.5	11.3	4.9	17.4	4.0	
II 地区（〒177）	374	63.4	58.0	22.5	11.0	10.7	9.6	3.5	6.1	1.6	
III 地区（〒178）	269	53.5	62.8	24.9	11.2	11.5	6.7	2.2	6.7	3.3	
IV 地区（〒179）	403	61.8	50.6	27.5	12.9	10.7	10.2	4.7	6.9	1.2	

地区別にみると、「農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき」はII地区（〒177）とIV地区（〒179）で6割を超えて多くなっている。「庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき」はIII地区（〒178）で6割を超え、II地区（〒177）で6割近くと多くなっている。（表3-3-1）

表3-3-2 区内農地の存在を身近に感じる事（累計）—性別、性・年齢別

(%)

		n	農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき	庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき	農地からみどりの風を感じたとき	多くの生き物が生息していると感じたとき	災害を想定し、安心を感じたとき	区民農園などで農作業をしたり、イベントなどで土とふれあったとき	その他	身近に感じたことはない	無回答
全体		1,432	58.4	51.2	24.4	12.2	10.7	9.3	3.8	9.5	2.7
【性別】											
男性		619	59.6	42.0	27.5	13.2	11.8	8.9	4.2	11.6	2.4
女性		780	58.3	59.4	21.5	11.4	10.0	9.9	3.7	7.6	2.2
【性・年齢別】											
男	20歳代	45	62.2	26.7	24.4	8.9	15.6	8.9	6.7	20.0	2.2
	30歳代	87	64.4	42.5	24.1	14.9	3.4	12.6	6.9	11.5	1.1
	40歳代	146	64.4	48.6	25.3	9.6	4.1	6.2	6.2	14.4	0.7
	50歳代	118	57.6	43.2	34.7	22.0	15.3	5.1	1.7	7.6	0.8
	60歳代	123	54.5	39.0	24.4	16.3	17.9	10.6	4.1	12.2	1.6
	70歳以上	98	55.1	39.8	30.6	5.1	17.3	12.2	1.0	8.2	9.2
女	20歳代	73	64.4	42.5	21.9	19.2	2.7	6.8	4.1	16.4	0.0
	30歳代	140	60.0	55.7	18.6	12.1	10.7	12.9	5.7	7.1	1.4
	40歳代	182	60.4	64.3	23.6	9.3	8.8	13.2	4.9	5.5	0.5
	50歳代	138	58.7	64.5	22.5	11.6	15.2	5.8	2.2	7.2	0.0
	60歳代	133	58.6	63.9	24.1	9.0	9.8	7.5	1.5	6.8	2.3
	70歳以上	108	50.0	55.6	18.5	11.1	9.3	9.3	2.8	6.5	10.2

性別にみると、「庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき」は女性の方が17.4ポイント高くなっている。

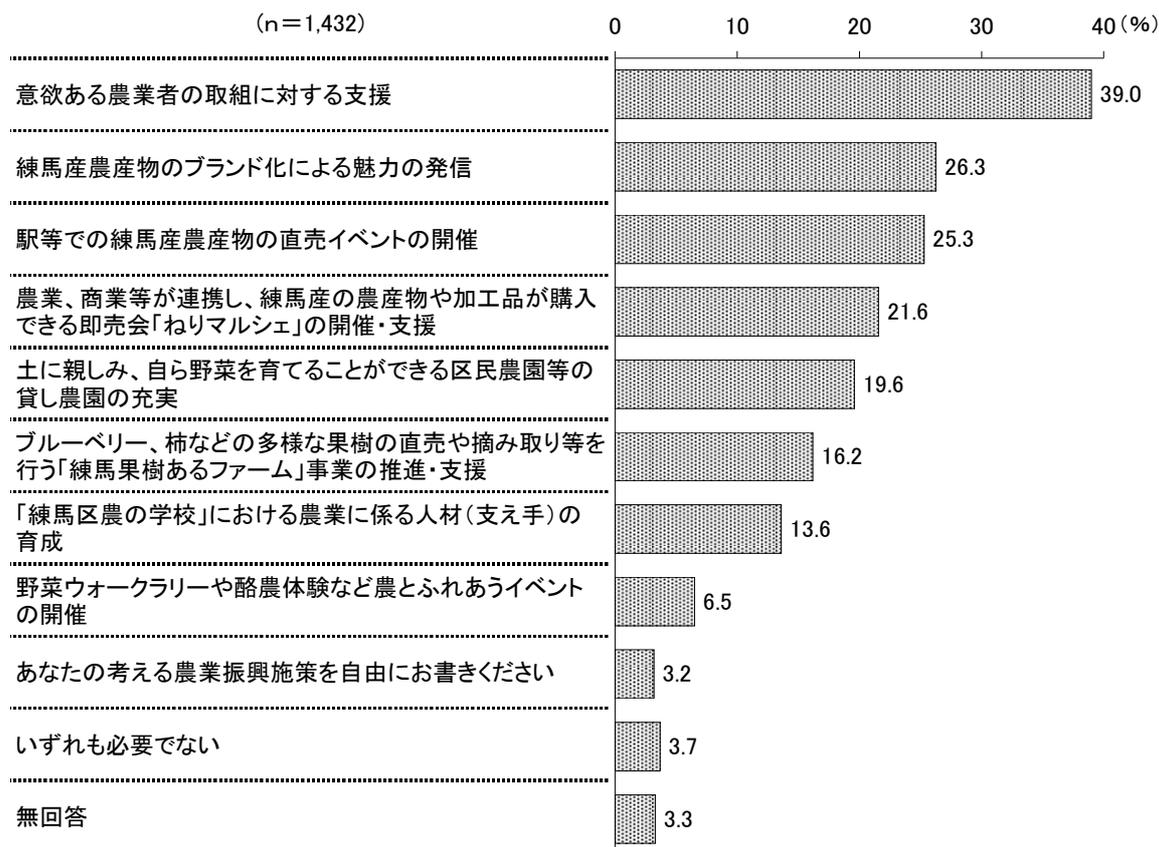
性・年齢別にみると、「農の風景を見て、安らぎや季節を感じたとき」は男性の30歳代と40歳代、女性20歳代で6割半ばと多くなっている。「庭先直売所などで新鮮な野菜を購入するとき」は女性の40歳代から60歳代で6割台と多くなっている。「農地からみどりの風を感じたとき」は男性50歳代で3割半ばと多くなっている。(表3-3-2)

(4) 重要だと思う農業振興策

◇「意欲ある農業者の取組に対する支援」がほぼ4割

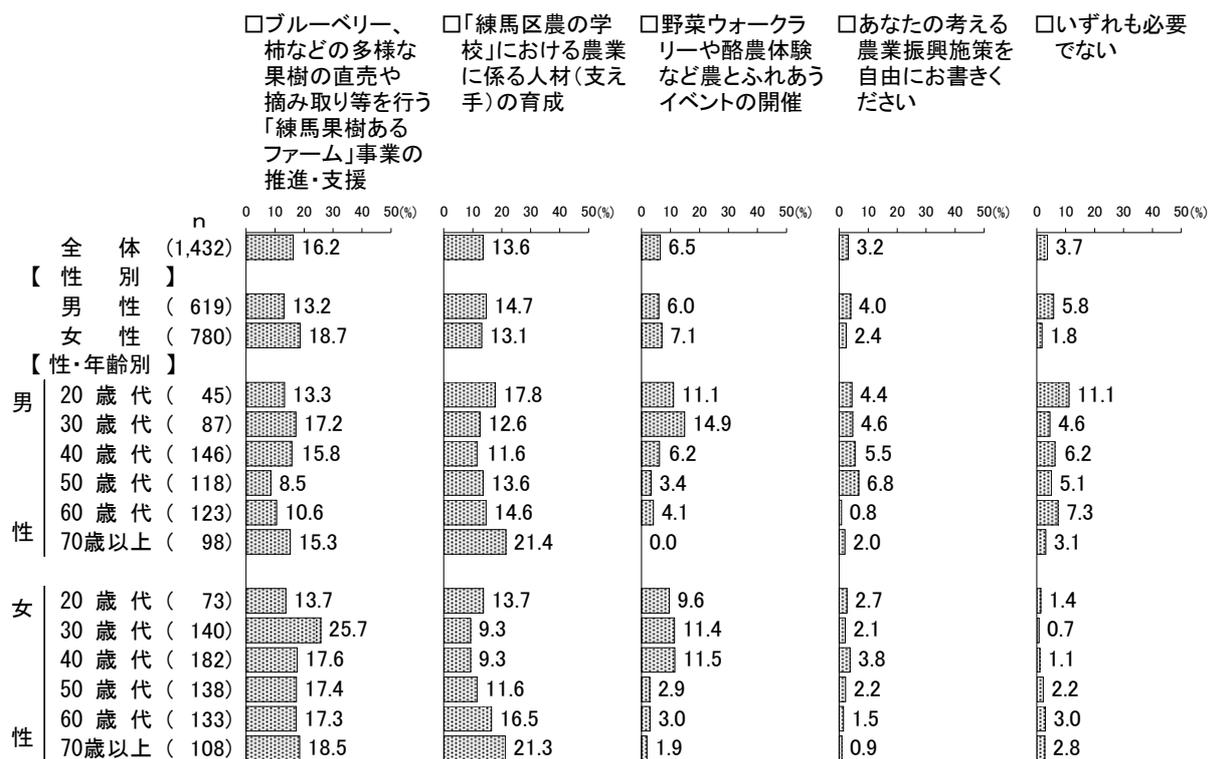
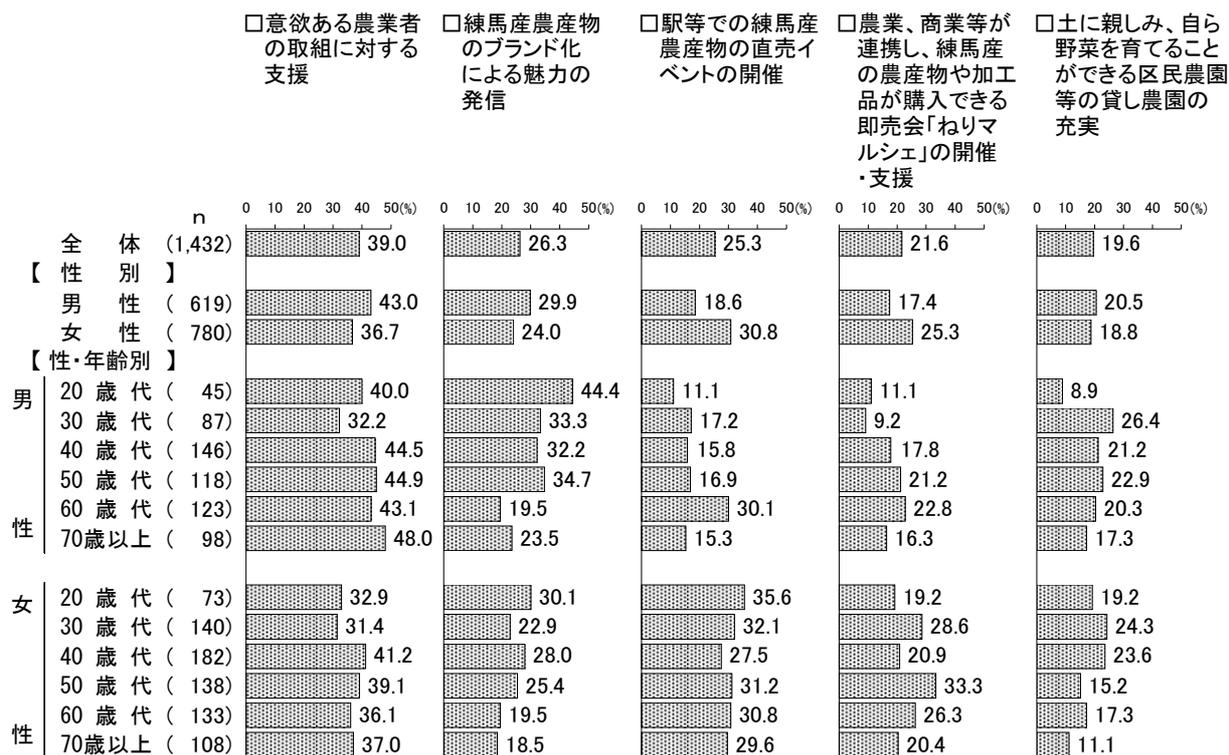
問26 区では身近なところで生産される安全で新鮮な練馬の農産物の魅力を高め、発信していくために、様々な農業振興策に取り組んでいます。次の施策のうち、あなたが重要だと思うものを選んでください。(○は2つまで)

図3-4-1 重要だと思う農業振興策



重要だと思う農業振興策について聞いたところ、「意欲ある農業者の取組に対する支援」(39.0%)がほぼ4割で最も多く、次いで「練馬産農産物のブランド化による魅力の発信」(26.3%)、「駅等での練馬産農産物の直売イベントの開催」(25.3%)、「農業、商業等が連携し、練馬産の農産物や加工品が購入できる即売会『ねりマルシェ』の開催・支援」(21.6%)、「土に親しみ、自ら野菜を育てることができる区民農園等の貸し農園の充実」(19.6%)などの順になっている。(図3-4-1)

図3-4-2 重要だと思う農業振興策一性別、性・年齢別



性別にみると、「駅等での練馬産農産物の直売イベントの開催」は女性の方が12.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「意欲ある農業者の取組に対する支援」は男性70歳以上で5割近くと多くなっている。「練馬産農産物のブランド化による魅力の発信」は男性20歳代で4割半ばと多くなっている。

(図3-4-2)